

津山への提言 市政アドバイザーからの



学習院女子大学教授 増田 美子さん（東京都）

今回は、日本服飾史や民俗文化史を専門としている学習院女子大学教授の増田美子さんからの提言です。

作州の農産物を大切に

農業者の高齢化と田畑の荒廃は日本全国で深刻な問題となっていますが、津山も例外ではないと聞いております。農業が若者にとって魅力ある安定した収入源になれば、彼らは先祖代々の田畑に戻ってくるのではないでしょう。収穫の喜びは、人間の本源的なものではありません。

農水省は平成17年に「経営所得安定対策等大綱」を出し、担い手を中心とした農業の再編に着手しています。その一つが集落営農制度（集落で組織を作る形）で、法人化すれば認定農業者として新たな支援も受けられるようです。政府の宣伝のようなバラ色の農業サラリーマンが誕生するかどうかは不透明ですが、若者の手に農業を取り戻すためには、これも一つの選択肢

ではないでしょうか。この集落営農を進めるためには、強力な行政の後押しが必要です。自然環境を生かした安全で美味しい農産物の供給は、津山の発展基盤としての可能性を秘めていると思います。今、食環境を無農薬・有機栽培などの美味しく安全なものにすることは重要課題の一つです。地元「農業株式会社」で生産された安全な農産物を、まずは学校給食、大学などの食堂、病院の食事、さらには市内の市場に供給するといった形で、地産地消を目指すのももちろんですが、津山から都会に出た者にも注文販売などの形で供給すれば、そのマーケットはかなり拡大するのではないのでしょうか。津山を離れた者も故郷への協力は惜しまないと思います。

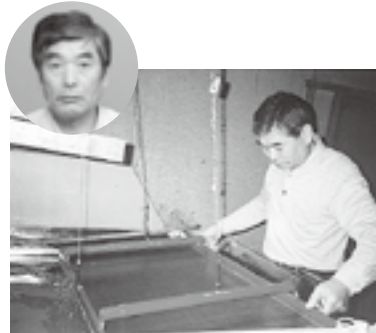
増田 美子

●まただ よしこ（旧姓：塚原） 昭和19年津山市生まれ。津山高校卒業、お茶の水女子大学大学院修士課程修了。学習院女子短期大学教授を経て学習院女子大学教授に。主な著書に「古代服飾の研究」（日本風俗史学会第20回江馬賞受賞）、「日本喪服史 古代編」源流社がある。

津山市重要文化財の指定

教育委員会は、「横野和紙技術」「木地師・塗師技術」の2件を新たに市の重要無形文化財に指定しました。

横野和紙技術保持者 上田繁男さん（上横野、昭和17年生まれ）



父に師事し16歳で手漉き和紙の全工程を習得。上横野で作られている和紙は、薄くかさばらず表面が滑らかなため、金箔の間にはさむ箔合紙として日本一の名声を勝ち取っています。上田さんは、原料であるミツマタ、コウゾなどの栽培から紙漉きまでの工程を一貫して行う伝統を守っています。これまでに数々の賞を受賞しており、トップブランドとして名が通っています。

木地師・塗師技術保持者 小椋芳之さん（鉄砲町、昭和22年生まれ）



昭和32年から父に師事し、木地師と塗師技術を習得。木地師とは、ろくろを使い木から器の形に作り上げる技術です。塗師とは、白木地による汚れ、変形、割れを防ぐための漆塗りの技法です。小椋さんは木目を生かし磨くことで美しい模様となった盆や鉢などの作品を製作し、これまで数々の賞を受賞してきました。この技術を有しているのは市では小椋さんだけです。

スプレー缶は必ず穴を開けて、資源回収へ

今年に入ってからごみ収集車の爆発事故が津山で3件も起きています。スプレー缶に残っていたガスが原因と思われます。

ごみ収集の作業員がけがをする恐れもあり、大変危険です。

スプレー缶は、使い切って、屋外で穴を開けてから「缶」として資源回収に出してください。不燃ごみの袋には絶対に入れないでください。

問い合わせ先 環境事業所 ☎22 - 8255



▲ ごみ袋に入っていた穴の開いていないスプレー缶

農業用水は地域の財産



農業用水は農業生産用のほかに、生活用や防火用として、また生態系の保全に至るまで、多くの機能を持っています。「地域用水」と呼ばれています。各地域では共同で、草刈りやたまった泥を取り除くなどの日常的な維持管理と点検を行っています。

最近、用水路にペットボトル・空き缶・ごみ袋などが捨てられ、通水口、ため升をふさぐなど被害が発生して困っています。これから農繁期の灌漑利用や梅雨時の水量調整など、農業用水の役割が重要な時期となります。用水路は地域の財産ですので大切にしましょう。

問い合わせ先 農村整備課 ☎32 - 2077

だより



5月8日、加茂町中原地内の加茂川で加茂小学校の1年生29人が稚アユの放流体験を行いました。

これは、加茂川に親しみ清流を守る気持ちを持ってもらいたいと、加茂郷漁協が毎年招待して行っているものです。児童たちは10cmほどに成長した稚アユを入れたバケツを持って、何回も川へ通いながら放流しました。

アユ釣りが解禁する頃には多くの釣り人を楽しませてくれることでしょう。

久米支所

加茂支所

久米の里 仙人まつり

加茂小児童が稚アユ放流
小さなバケツで次々と

好天に恵まれ大盛況



4月29日、道の駅「久米の里」で「仙人まつり春編」が開かれ、市内外から家族連れら約6,500人が訪れました。

久米地域の特産品販売のほか、テント村では、手打ちそばやひらめの塩焼き、山菜おこわなどが販売され好評でした。また、イベントコーナーでは、餅投げ、ビンゴゲーム「武蔵と小次郎の観光寸劇」、モバイルスーツの cockpit への搭乗も行なわれるなど、来場者は楽しい一時を過ごしました。